東京新島研究会だよりNo. 122　　発行:２０２６．１１．１５

# 良心の碑（いしぶみ）

## １１月例会　霊南坂教会訪問

日　時：１１月４日（水）12:30 ～ 14：30
参加者：２５名（非会員を含む）

**◆第１部：パイプオルガンコンサート**

霊南坂教会オルガニスト関本恵美子さんの演奏。



Ｔ･デュボア（1837 ～ 1924）による「７つの小品」（プレリュード、宗教的カンティレーネ、行進曲、間奏曲、祈り、賛歌による後奏曲、退堂行進曲）が約３０分間にわたって奏でられ、荘重なパイプオルガンの音色を堪能した。

**第２部：後宮敬爾（うしろくよしや）牧師による講演**

演題「小崎弘道が新島襄から受け継いだもの　ー霊南坂教会を一例としてー」

■霊南坂教会と「組合教会」

霊南坂教会はかつて「日本組合教会」に属した。教会の名付け親は新島襄の教え子である小崎弘道。「組合」には、いかなる権威も絶対とせず、各教会の「主体性」と「独立性」を尊重する自由な精神という意味が込められている。

■自由と自治を求めた「会衆派教会」

教会と国家が結び付いていたヨーロッパの状況からアメリカに逃れたピルグリム・ファーザーズは主に会衆派で、国家から独立した「自治の教会」を目指した。アメリカでの拠点形成と教育への情熱に支えられ、ハーバード大学を設立するなどリベラルアーツを重視した。



■世界宣教への情熱と日本への眼差し

1806 年、雷雨の中、ヘイスタック（干し草小屋）で捧げられた学生たちの祈りから海外宣教団体「アメリカン・ボード」が誕生。1827 年、ボストンでの集会の際、テーブル上の日本製の竹籠に集まった約 27 ドルが鎖国中の日本への伝道資金として捧げられた。その根底には、貧しい人、困難な状況にある人への奉仕という精神があった。

■新島襄と「愛以貫之（あいを以ってこれをつらぬく）」

新島襄は日本の危機を憂い、死罪覚悟で密航した。欧米での 9 年間で、新しい歴史をつくる主体的な人間を育てるのは「キリスト教」と「デモクラシー」との確信を得た。「キリスト教とは何かと問われたら、愛で物事を貫く生き方だと答えたい」と述べ、帰国後、自治の教会と自由な教育の確立を目指した。

■新島襄と小崎弘道ー師弟の絆ー

小崎は熊本で信仰を得たのち、同志社英学校へ入学（第 1 回卒業生）。卒業後も伝道での協力関係が続いた。新島没後、同志社第 2 代社長に就任した。

■小崎弘道と霊南坂教会の歩み

霊南坂教会の前身は 1879 年に設立された新肴町（しんさかなまち）教会で、牧師（小崎）と青年信徒たち（群羊社）との協力で誕生した。海外からの資金援助なしに自分たちの力でつくった。設立式と小崎の牧師就任式（按手礼）では、新島襄が司式を務めた。

■現在の霊南坂教会に息づく特徴

・音楽性豊かな礼拝：人間の言葉（説明）を少なくし、音楽を通して導かれる礼拝



・歴史を示すステンドグラス：聖書の長い歴史に上に立つ教会であることを視覚的に表現

・フランクな人間関係：一人ひとりの良心と平等を重んじる、フレンドシップを大切にする風土

**第３部：教会見学**

2 階に昔のままに保存されている旧会堂（現在の会堂は 2 代目）の一部を案内してもらった。会堂入り口のそばの廊下に設けられた長大なステンドグラスの原画は田中忠雄氏によるもの

（文責：福間宰　　写真：木原康博）

**12月例会（研究発表）**

日時　１２月８日（火）１４:００～
発表者　**内田孝雄氏（群馬新島研究会）**
**テーマ『山崎為徳』**
分担　司会：支倉　　聖書･祈祷：片桐
受付：伊藤・福間　　写真：木原

**窓**　恥ずかしながら、初めて「霊南坂教会」の名前を知ったのは、1980 年（昭和 55 年）11 月 19 日だった。この日、歌手の山口百恵さんと俳優の三浦友和さんが霊南坂教会で結婚式を挙げたのだった。当時、教会近くのアメリカ大使館のそばの会社で仕事をしていた私は、あの急な霊南坂にかけ、大勢の警官がスターの挙式に備えて厳重な警戒態勢を敷いていたのに驚いたものだ。

その後の 1987 年（昭和 62 年）6 月にも歌手の郷ひろみさんと女優の二谷友里恵さん（ちなみに父親の俳優の二谷英明さんは同志社大学文学部英文学科中退）など、霊南坂教会で挙式するスターは多く、芸能人の御用達という様相を呈した。なぜここが選ばれたのか知る由もないが、都心の一等地である赤坂・霊南坂という立地も魅力だったのかもしれない。

1879 年（明治 12 年）6 月 12 日、同志社英学校で第 1 回卒業式が開催された。初の卒業生として送り出された 15 人はいずれも熊本バンドの出身で、同志社に残った数人を除き、大半がキリスト教伝道のために全国に散った。その 1 人が霊南坂教会を設立した小崎弘道であり、また 1 人が群馬・安中教会の初代牧師となった海老名弾正であった。その後、小崎弘道は新島の遺志を継いで同志社社長に就いたことは広く知られている。

「新島襄」（和田洋一著）によると、「東京へ出て、（霊南坂教会の前身の）新肴町教会で伝道師となった小崎弘道は、毎月教会からもらう給料は 4 円か 5 円だったので、翻訳をしたり英語を教えたりして稼いだ」という。デビスやラーネッドなど同志社の教師は一律 100 円だったそうだ。こうした苦労を重ねながら教会を育てた小崎弘道らは、100 年後には霊南坂教会が時代を代表するスターたちもあこがれる、東京で最もホットな教会になるなど想像できなかったに違いない。　　（福間 宰）